

2010年度日本計量生物学会年会・チュートリアルのご案内

和泉志津恵, 大森崇, 服部聡, 三中信宏, 上坂浩之 (企画担当理事)

2010年度日本計量生物学会年会を5月21日(金)午後ならびに5月22日(土)に統計数理研究所にて開催します。また、5月21日午前に同一会場にてチュートリアルの講演を実施します。年会の一般講演を募集しますので奮ってご参加下さい。一般講演申込は年会の「一般講演の申し込み」の項をご参照下さい。なお、今年より親子休憩室を設置しますので、お子様同伴でご参加いただけます。利用については「親子休憩室の設置について」をご参照ください。

本年会は応用統計学会の後援で実施され、両学会員は本年会、5月21日のチュートリアル(計量生物学会と応用統計学会の共催)、並びに5月20日開催の応用統計学会年会共に、会員価格で参加できます。本年会並びにチュートリアルの参加は、原則として事前登録することとしております。参加申込は、同封の申込用紙、もしくはHP：<http://www.soc.nii.ac.jp/jbs/index.html>にてお願いします。

年会およびチュートリアルの会場および参加要領

会場

統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3 電話：050-5533-8500 (代) ; <http://www.ism.ac.jp/>

参加費

会員, 応用統計学会員 年会・チュートリアルそれぞれ3,000円, 非会員5,000円

事前申込 各500円引き

年会とチュートリアル一括事前申込の場合, 両方合わせて1,000円引き

学生(会員, 非会員共に)1,000円。

参加申し込み期間

年会・チュートリアルは一括申込をお願いします

開始：4月2日(金), 締め切り：4月23日(金)

チュートリアル

5月21日(金) 9:30~12:00 (予定)

テーマ：統計思考と分類思考—Rを用いた分類パターンの認識—

講師：三中信宏(農業環境技術研究所)

【内容】データに基づく「分類」(classification)の構築とパターン認識は、現代統計学においては多変量解析の理論体系の中で論じられることが多い。しかし、人間が行なう認知行為としての分類のもつ意味は、統計学というひとつのサイエンスの中でのみ追究するのでは限界がある。今回のチュートリアルの前半第一部では、分類が担ってきた、多様な対象物に関するパターン構築を通じての体系化(systematization)を、クラスター分析の歴史的成立を例にとりて考察する。統計的手法としてのクラスター分析はもともと生物分類学における数量表形学(numerical phenetics)という学派のツールとして1950年代に開発された。したがって、生物分類学史の文脈の中でクラスター分析を再検討することにより、分類思考と統計思考がたどってきた系譜をより深く理解することができるだろう。この理解をふまえて、後半第二部では、実際の研究の場でユーザーが直面する「定量的分類」の要請に対して、統計言語RならびにRコマンドを用いてどのようにクラスター分析を実践していくかを解説する。多変量データからの全体的類似度の計算オプションとクラスタリング・アルゴリズムの選択、さらにはマルスケール・ブーツストラップを用いたクラスターの信頼性検定など、いくつかのテストデータを用いたクラスター分析のデモを通じて、「分類」という行為に含まれる虚実を疑似体験していただきたい。

2010年日本計量生物学会年会

特別セッション： 22日午後（予定）

セッション名： 農学・生態学・進化学でのベイズ統計手法の応用に関する諸問題

オーガナイザー： 三中信宏（農業環境技術研究所）

【趣旨】

生物統計学の近年の応用研究では、ベイジアンMCMCに代表される計算統計学的手法を用いたベイズ推定がさまざまな応用分野に適用されるようになってきた。とりわけ、コンピューター・ハードウェアの高性能化と使い勝手のよいソフトウェアの普及により、農学・生態学・進化学の分野では最近十年の短期間に急速にこれらのベイズ統計学的手法が浸透している。今回の特別セッションでは、これら生物統計学の分野でいま先導的な研究を進めている若手の研究者に、ベイズ統計学をそれぞれの問題状況で用いるときに生じる理論的問題と実践的問題について話題提供をしていただき、分野を越えて共通する問題点について議論を深める場にした。

【演者・演題】

- 岸野洋久（東京大学）「ベイズ統計手法の応用の現状と展望（仮）」
- 北門利英（東京海洋大学）「水産資源学におけるベイズモデリング（仮）」
- 林 武司（農業生物資源研究所）「ベイズ手法を用いた遺伝育種研究（仮）」
- 田辺晶史（筑波大学）「ベイズ法をもちいた系統進化の解析（仮）」
- 伊東宏樹（森林総合研究所）「植物生態学とベイジアンMCMC（仮）」
- 久保拓弥（北海道大学）「集団動態のベイズモデリング（仮）」

特別講演： 5月22日午後（予定）

演題： Statistics in Medicine

演者： 丹後俊郎（2009年度学会賞受賞者の講演）

一般講演の申し込み

以下の分野毎に演題を募集します。

- A. 臨床研究・臨床診断学, B. 疫学, C. ゲノム・バイオインフォマティクス,
- D. 農業・環境・資源, E. 医薬品・医療機器等, F. その他

応募の際には、ご希望される分野名を必ずご指定下さい。

分野毎の演題募集には、学会の独自性・特色をより打ち出し、専門性を深めるというねらいがあります。分野毎に、より踏み込んだ活発な議論を期待しております。会員の皆様の積極的なご発表をお願い致します。

(1) 申し込み方法：

発表者氏名、所属（共同の場合は全員の氏名、所属）、講演題目、連絡先を明記の上、電子メール、ファックスあるいは葉書で下記にお送り下さい。また、Biometric Bulletinへの掲載のためにお手数ですが、講演題目、発表者氏名、所属についての英語版も合わせてお送り下さい。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階 (財)統計情報研究開発センター内
日本計量生物学会事務局

E-mail: biometrics@sinfonica.or.jp; Fax: 03-3234-7472

HP: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbs/index.html>

(2) 発表申し込み受付開始 2010年3月 8日(月)

(3) 発表申し込み締め切り 2010年3月31日(水)

(4) 予稿原稿締切(必着) 2010年4月19日(月)

ご講演を申し込まれた方には予稿原稿執筆要領をお送りします。

親子休憩室の設置について

今年より、チュートリアルセミナーおよび年会期間中、親子休憩室を設置します。お子さん同伴で安心してご参加いただけます。なお、親子休憩室でのお子さんの安全確保のため、親子休憩室では保護者が同伴することを条件とします。準備の都合上、参加申込書にご利用人数を記入ください。

その他

- ・年会期間中に日本計量生物学会総会及び学会賞授与式、並びに評議員会を開催します。
- ・5月20日(木)には応用統計学会年会が本年会と同会場にて開催されます。参加費は正会員、後援学会員3,000円、非会員5,000円、学生(会員、非会員とも)1,000円です。

会場

統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3 電話：050-5533-8500 (代)； <http://www.ism.ac.jp/>

成田空港または羽田空港よりリムジンバスで立川地区下車

JR中央線立川駅下車



- 立川北駅から多摩モノレールで高松駅下車 徒歩約7分(モノレール時刻表)
- 立川駅北口バス乗り場2番から、立川バスで裁判所前下車 徒歩約3分
- 立川駅より徒歩約25分